

(2) 小学校と中学校の接続

① アプローチプログラム、スタートプログラムの編成と活用

小学6年生が、中学校生活や他学年との人間関係等に抱く不安を取り除くためには、年間をとおした計画的な取組が必要だと考え、アプローチプログラムを編成した。このプログラムの中の清和文楽交流では、中学1年生が小学6年生に、清和文楽の演技に関する助言とともに自分の経験談を伝える場を設定した。小学6年生は、先輩たちが感じた演技への緊張感や不安感を知るとともに、励ましの言葉をかけてもらい、安心感や中学生への憧れを抱き、次年度の自分たちの役割について自覚していく姿が見られた。

このプログラムの実施をとおして、小学6年生と中学1年生及び中学校職員との交流が深まり、小学6年生に安心感を与えることや中学生との人間関係をつなぐことができている。

(接続◎ 適応○ 支援◇)

月	学校行事等	乗り入れ指導(教科等)	交流授業(総合的な学習の時間)・活動	授業参観・その他
4	・入学式			
5	・修学旅行 ◎中学校体育大会への参加	◎算数、外国語、音楽、体育 ・児童理解 ・学習内容、方法等の理解	◎清和文楽交流 ・練習開始にあたって、先輩(中1)に学ぶ。	◎◇中学校授業参観 ・小学校職員が中学校の授業を参観する。 ◎◇小・中連絡会(頼朝) ・前年度卒業生の中学校生活の様子について

小学6年生アプローチプログラム

中学校入学後は、生活に無理なく適応できるようにスタートプログラムを編成した。このプログラムは、2年・3年への進級に伴う接続や適応を視野に入れた年間プログラムの内容とも関連づけた。1年部では、このスタートプログラムを入学後の一定期間に実施し、一人一人の学校生活への適応状況を見守りながら支援を行った。活動に際しては、1年生が他学年や職員とのつながりを深めたり、異年齢集団においても所属感を感じたりできるよう、活動形態や内容の工夫に努めた。また、2年・3年では、学年への適応を図る取組とともに、1年生の円滑な適応を意識する働きかけを行った。具体例としては、4月に行った生徒会主催の歓迎行事が挙げられる。この中の部活動紹介では、各部が新入生との交流を図るために、練習内容を体験できる場を設定し、「認める、ほめる、励ます」声かけを行いながら歓迎する気持ちを表した。まだ、緊張感が残る1年生は、上級生と一緒に体を動かしたり、励ましや拍手を受けたりする中で、表情が和らぎ、安心感をもった様子が見られた。

第1週 <今週のねらい>
中学生としての自覚を持ち、中学校生活を始められること。

月	日	曜	行事等	校時	教科等	学習内容	留意事項	2年生	3年生
4	7								
	8		始業式	職員会議			・生徒に関する情報と取組を共有する。		
	9	水	入学式	4	学級活動	入学式の事前指導	・新しい生活が始まることへの喜びを感じさせるとともに、意欲を持たせる。 ・式に対する礼節を重んじる態度を育てる。	上級生としての自覚	無上級生としての自覚
				6	学級活動	学級開き ・生徒の抱負 ・担任の思い	・中学校への所属感を高める。 ・一人一人の思いを受け止める、今後の取組に生かす。	仲間との連帯感の高揚 個人の意識の高揚	
	10	木	新入生歓迎行事	1・2	学級活動	学級の組織作り 給食指導	・集団の一員としての自覚を高める。 ・集団生活におけるルールを確認し、守ろうとする態度を育てる。	責任感の向上	責任感の高揚と自治的集団の育成
				5・6	生徒会活動	生徒会歓迎行事	・異年齢集団の活動により、中学校生活への意欲を高める。	サブリーダー意識	リーダーシップの発揮
	11	金	振替休業日						

中学1年生スタートプログラム

② 交流活動の工夫

ア 花は咲くプロジェクト（9 ページ参照）

小学6年生と中学2年生が、合同でプランターに花の苗の植え付けを行った。この活動では、花の苗は中学生が育てたものに加え、矢部高等学校との連携を意識して、食農科学科の生徒が育てた苗を使用した。当日は、中学生がリーダーとなり、構成的グループエンカウンターを用いた雰囲気づくりを行いながら、活動の意義や苗の植え付けの手順等の説明を行った。グループでの作業時には、互いに笑顔で会話をしながら作業をする姿が見られた。



苗の植え替えの様子

イ 体育大会・運動会での交流

5月に中学校で実施した体育大会では、「仲良く歩こう三人四脚」と題した合同競技を行った。児童1人と生徒2人でグループを作ったの競技であり、6年生に限らず、低学年の児童も参加することができ、中学生が小学生に優しい心配りをみせる姿があった。



小学校運動会での様子

また、9月の小学校の運動会では、子どものつながりを意図した合同競技を行った。年長児・児童・生徒の3人がグループで手をつないで入場し、生徒におんぶされた年長児は、後ろから児童に支えられながら競技を楽しんだ。みんな、にこやかな表情を見せていて、年長児からは「楽しかった。」というつぶやきが聞こえた。また、中学生は、徒競走や綱引きなどへ主体的に参加し、母校へ成長した姿を見せることができた。小学生は、先輩の参加を喜び、拍手したり、声援を送ったりして応援する様子が見られた。

③ アンケートの実施と結果の活用

中学校入学に際して、小学6年生とその保護者が抱える不安や戸惑いの実態を把握するため、12月にアンケートを実施した。その結果、児童の不安として多かったのは学習面のことで、内容としては特に英語の学習に関することであった。また、保護者の不安として多かったのは、学習面とともに上級生との人間関係であった。（図5）その不安を軽減するには、学習の内容や上級生の実際の姿を直接見てもらうことが必要だと考え、中学校の体験入学時に、1年生の英語の授業参観と、2年生・3年生の授業参観を実施した。更に、保護者同士が学校で同じ時間を過ごして話題を共有することで、今後のPTA活動の円滑化にもつながると考えた。そのため、授業参観を体験入学と同日に実施し、児童・生徒とその保護者を対象にした教育講演会も開催した。

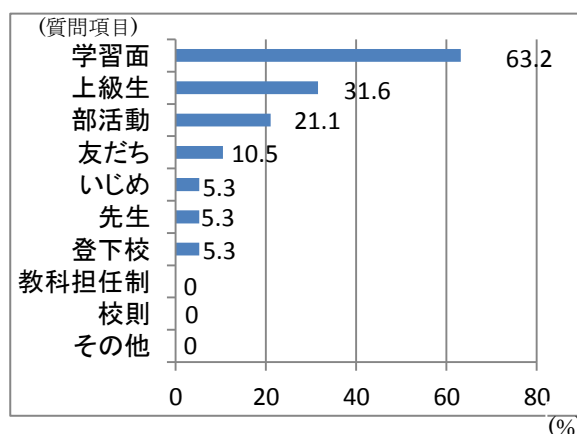


図5 入学前の保護者の不安(アンケートより)